

【「うた乃」の本圃直接定植】～定植～

①本圃直接定植法とは

「本圃直接定植法」は種子繁殖型イチゴ品種の406穴セル苗を直接本圃に定植する方法です。育苗施設も不要で極めて省力的な手法ですが、高温期に定植し、その後本圃で花芽分化を誘導させる必要があるため二次育苗法より花芽分化が遅れやすい傾向があります。

花芽分化を誘導するために本圃で窒素中断を行います。培土量や培土中の残存肥料、栽培管理等によって窒素中断のしやすさが異なるため、各施設に最適な管理（施肥量、窒素中断開始時期など）を見つけることがポイントになります。

②定植

- ・ハウスには必ず遮光(遮熱)資材を使用してください。(例：遮光率40～50%のネット)
- ・406穴プラグ苗が届いたら、速やかに定植してください。
- ・「うた乃」の定植適期は7月下旬から8月始め頃です。「うた乃」は早く植えずぎると心止まり株が発生しやすくなります。
- ・灌水チューブのピッチと株間を揃えてください。(例：株間20cm、点滴ピッチ20cm、2本設置)
- ・灌水チューブの穴の下に指で3cm程の穴を作り、そこにプラグ苗を入れ、表面を軽く押さえます。二次育苗と同様、苗が傷まないようプラグ苗を引き抜く際はピンセットを用い、苗のクラウン部が浅すぎないように定植します。
- ・定植の際は株を、通路側に45度程度寝かせて植えてください。そうすることで、クラウン部に傾斜が付き、頂花房が通路側に出やすくなります。
- ・9月以降に株を掘り上げて検鏡により花芽分化状況の確認を行うため、一部の株間や条間等に検鏡用の株を数株余分に定植しておきます。
- ・定植後は必ず手灌水を行い（弱めのシャワー）、できれば定植後3日間手灌水すると活着が進みます。

③定植後の栽培管理

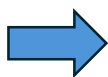
- ・根が活着するまでは、培土表面が乾かないよう灌水を行ってください。
- ・定植後は液肥管理で、目安はEC0.3mS/cm。施肥量が多すぎるとその後の窒素中断が適切にできず花芽分化が遅れるリスクがあります。十分な給液量が必要な時期なので、液肥濃度を上げすぎないように注意が必要です。

- ・葉かきは、鉢上げ2～3週間後に根が活着してから行います。始めはクラウンが細いため、株を傷めないよう株元を押さえながら葉かきを行ってください。その後1～2週間に1回程度、葉数3枚くらいになるように行います。
- ・株が小さい間は葉害に注意してください。また、種子繁殖型イチゴはランナー切り作業が無い場合、農薬使用回数のカウントが播種から収穫終了まで通算されることにも注意が必要です。

【参考】令和8年度作における農業研究所の本圃直接定植苗の様子



406 穴プラグ苗



定植直後（7月23日）



定植1週間後（7月30日）

《栽培管理条件》

施肥：養液土耕6号、EC0.25mS/cm(原水 EC0.1、排液 EC0.45)

給液量：株あたり約210ml/日（2分×3回）

※栽培層上部に窒素成分を含む新しい培土を充填したこともあり排液 EC が高めのため、給液 EC は低めで様子を見て、適宜調整予定です。

培土量：約3.8L/株

遮光ネット：ワリフ明涼（40%遮光）展張

定植後1週間のハウス内最高気温：39～44℃

窒素中断開始予定：8月下旬頃